SCリレートーク 取材編#15

2026.10

現地レポート

生活支援コーディネーター@AKITA

「すぐには解決できない課題を、これから取り組むテーマに。」

――みんなで考えてつくった、地域の長期プロジェクト

地域課題をプロジェクト化した取組について、お話を伺ったのは…

大館市社会福祉協議会
第1層SC　戸澤さん

住民から困りごとを聞き、地域の声を集める。
――そこから活動や企画につながることもありますが、**すぐには解決できない課題**も少なくありません。
かといって、同じような話し合いを繰り返していると、「また話し合いだけで終わってしまった」と感じることも。

そんな地域の課題を、すぐに解決するのではなく、**「これから地域で取り組んでいくテーマ」**として整理してみる。
大館市では、大きな課題をきっかけに、さまざまな立場の人と地域の課題を見つめ直し、「みんなでやれそうなこと」を考えました。
そこから出てきたアイデアを整理し、5～10年先を見据えた**9つのプロジェクト**として形にしています。



▲画像① 9つのプロジェクト

今回は、1層SCの戸澤さんに、そこに至るまでの「プロセス」をお聞きしました。

Keyword #みんなで「やれそう」を考える #集めた意見を整理してみる #「選べるメニュー」として使う

“取組ロードマップ”

CHECK!

プロセス	大館市で行ったこと
① **課題を見つめる**	アドバイザー、地域の実践者と課題をさまざまな角度から**整理**
② **みんなで考える**	多様な関係者と「みんなでやれそうなこと」を**考える**
③ **アイデアを整理する**	出たアイデアを**ジャンルごとに整理**し、プロジェクト**候補を選ぶ**
④ **協議体で決める**	1層協議体で**協議**し、9つのプロジェクトとして**決定**
⑤ **選んで実践する**	**各地域**で必要なプロジェクトから**実践**

◆プロセス①「課題をいろいろな角度から見つめる」 ――まずは、地域の「困った」を出発点に

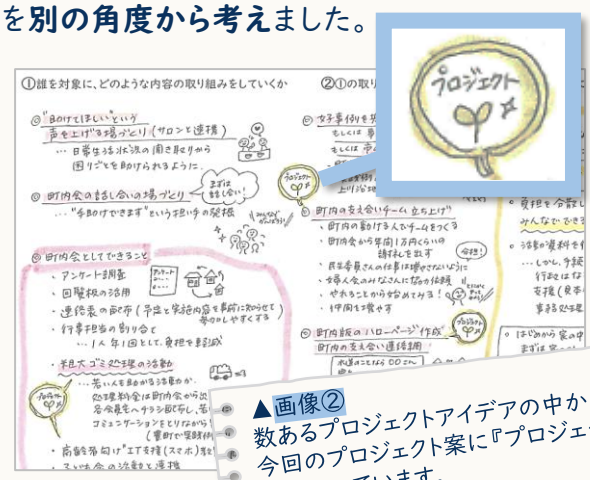
令和5年度、大館市では町内会の解散や介護保険事業所の閉鎖など、地域で暮らしていくための基盤に関わる大きな課題が浮上していました。ちょうどその頃、厚生労働省の「地域づくり加速化事業」に参画することになり、地域の課題を改めて整理する機会が訪れます。

オンラインミーティングでアドバイザーとともに**課題を洗い出し**、次いで、すでに地域で活動している実践者とのグループワークを実施。「こういう実践者を増やすには何が必要？」「みんなで何ができる？」と、地域で起きていることを**別の角度から考え**ました。

◆プロセス②「みんなでやれそう」を考える
――「できたらいいな」を、「実際できそう」に

次に、多様な関係者が参加するワークショップを開催しました。ここでは、地域で話し合いをするとよく聞かれる「いつもの悩み」が出され、「これで市内の課題はだいたい網羅できたかな」と思えるほど、さまざまな意見が集まりました。

そのうえで、**課題を並べるだけでなく、「みんなでやれること」「実際にできそうなこと」を考え**ました。「これは地域でできそうか？」「プロジェクトとして取り組めそうか？」という視点から、アイデアを出していきました。



▲画像②
数あるプロジェクトアイデアの中から、今回のプロジェクト案に『プロジェクト』印がついています。

◆プロセス③「アイデアを整理する」 ――出てきた声を、プロジェクトの候補に

ワークショップで出てきたアイデアを**ジャンルごとに分類**し、戸澤さんが手書きで整理。その中から、実際に**プロジェクト化できそうなものを9つ選び**ました。（画像②）

プロジェクトは、2層SCが担当地区で実践する「やることリスト」にもなると考えました。9つあれば、1年に3つずつ取り組むとしても3年間使えます。また、すぐに成果を出すことを求められないよう、5～10年を見据えた長期プロジェクトとして整理しました。

◆プロセス④「協議体で決める」 ――「できそうなこと」を、地域の「やること」へ

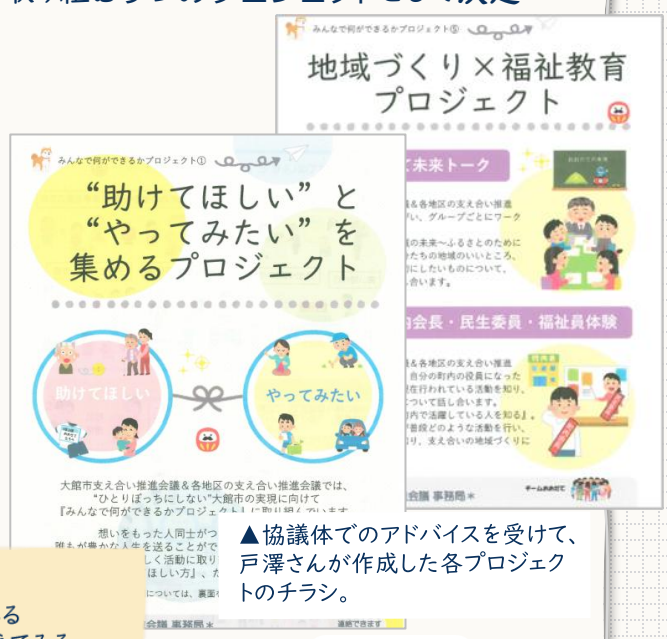
整理したアイデアを1層協議体で共有し、プロジェクト化について**協議**しました。さまざまな意見をもらいながら、最終的に決めるのはあくまでも協議体。協議体で決めたことだからこそ、実行するときにも協力をお願いしていく、というスタンスです。

こうして、「みんなでできそうなこと」が、地域として取り組む9つのプロジェクトとして**決定**しました。（画像①）

◆プロセス⑤「選んで実践する」 ――9つ全部をやる必要はない。「選べるメニュー」として使う

9つのプロジェクトは、すべての地域で一斉に実施するわけではありません。**それぞれの地域**で必要性が高いものや、地域として取り組みたいものから**実施**しています。

現在は、「“助けてほしい”と“やってみたい”を集めるプロジェクト」の周知をきっかけに座談会が行われ、そこから買物支援（地元店舗の出張販売）につながったほか、「支え合い活動事例集」づくりや「地域づくり×福祉教育プロジェクト」など、具体的な取組が動き始めています。



▲協議体でのアドバイスを受けて、戸澤さんが作成した各プロジェクトのチラシ。

“参考になるポイント”

- ✓ すぐに解決できない課題も、「これから取り組むテーマ」として捉えてみる
- ✓ 一人で答えを出さず、さまざまな立場の人と「みんなでやれそう」を考えてみる
- ✓ みんなで考えたアイデアを協議体で共有し、地域の「やること」として位置付ける

県委託 生活支援体制整備推進事業

秋田県社会福祉協議会 地域共生推進部 地域福祉推進担当
電話：018-864-2714　FAX：018-864-2742

スマホでも←読めます